

# 2008年金融危機におけるコミットメントラインとスポットローンに関する実証分析

一橋大学大学院生 本田朋史

## 要旨

本稿の目的は、2008年の金融危機において、コミットメントラインは企業へ流動性を供給することが可能であったか明らかにすることである。そのため、本稿は、2006年~2010年をサンプル期間とし、上場企業を対象にコミットメントライン借入に関する実証分析をおこなっている。実証分析の結果、金融危機以降、コミットメントライン借入の増加が観察された。

また、本稿はスポットローン及び企業の主な資金調達先により金融危機の影響が異なることを考慮した分析をおこなっている。分析の結果、金融危機直後、主な資金調達先が銀行である企業では、コミットメントライン借入の増加が観察された。一方、公募社債市場を主な資金調達先とする企業では、スポットローンの増加が明らかとなった。

以上の結果を踏まえると、銀行融資の大部分をスポットローンが占める日本において、2008年の金融危機以降、銀行を主な資金調達先としている企業は信用割当を受けた可能性が考えられる。しかしながら、実質的には、これらの企業はコミットメントラインを通して信用割当を回避することができたことが示唆される。